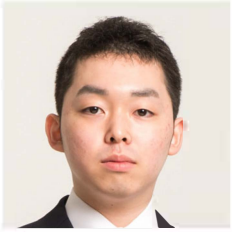
ぐるりとめぐる
分断都市水戸を結ぶコミュニティ施設



磯崎　蓮
建築設計計画Ⅰ研究室

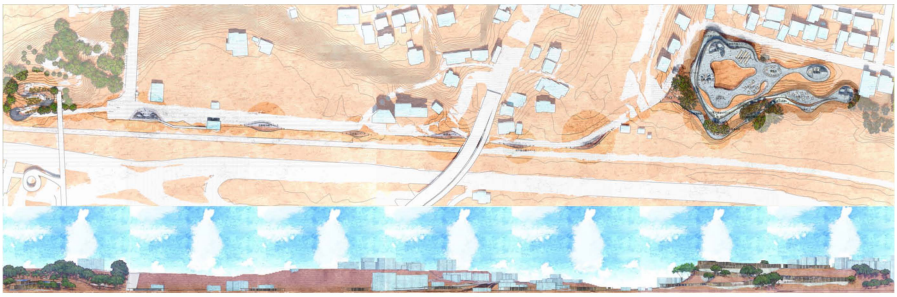
□研究の目的・背景

地元である水戸市は高低差20mの台地とそれに沿うように流れる川がある地形で、城下町らしい魅力がある。しかしそれは、上下の街を分断し市民が行き来しにくいという問題点にもなっている。台地と低地を結ぶ道が３か所のみあるが、車での移動でなければ行き来しにくいのが現状である。そのため、歩行者や自転車の利用者は一度駅を経由しなければならず、駅で人の活動が治まってしまい、住民が顔を合わせる機会が減る要因となっている。そこで私は、上下の町を歩いて結ぶことで問題を解消できないかと考えた。

□コンセプト

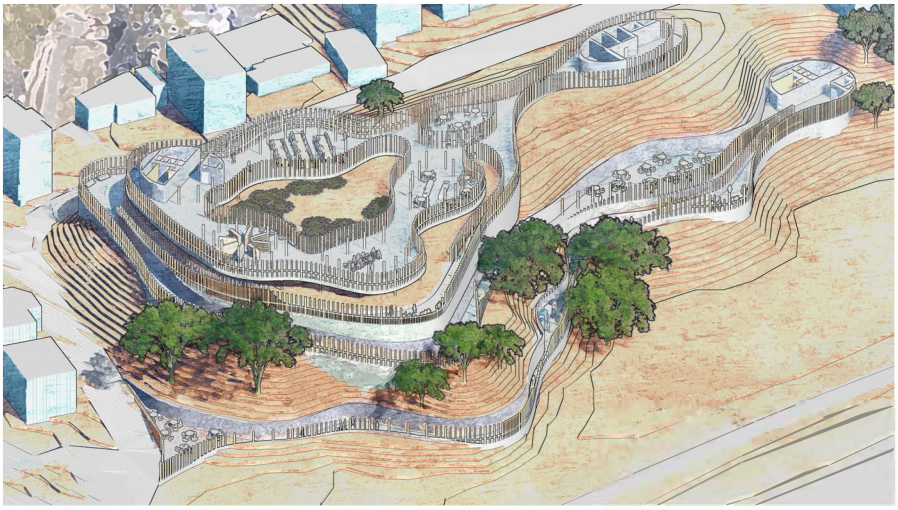
街にはいろんな楽しみ方がある。ひとりでも、2人でも、みんなでも楽しい、そんな街にしたい。

人との交流は結構な割合で偶発的に起こる。周囲の人が何をしているか見えるようになれば、集まるきっかけができ、コミュニケーションの輪が広がる。そこで、他者を知り、つながりを生む、地域の人々のコミュニティの再構築を促す建築を提案する。

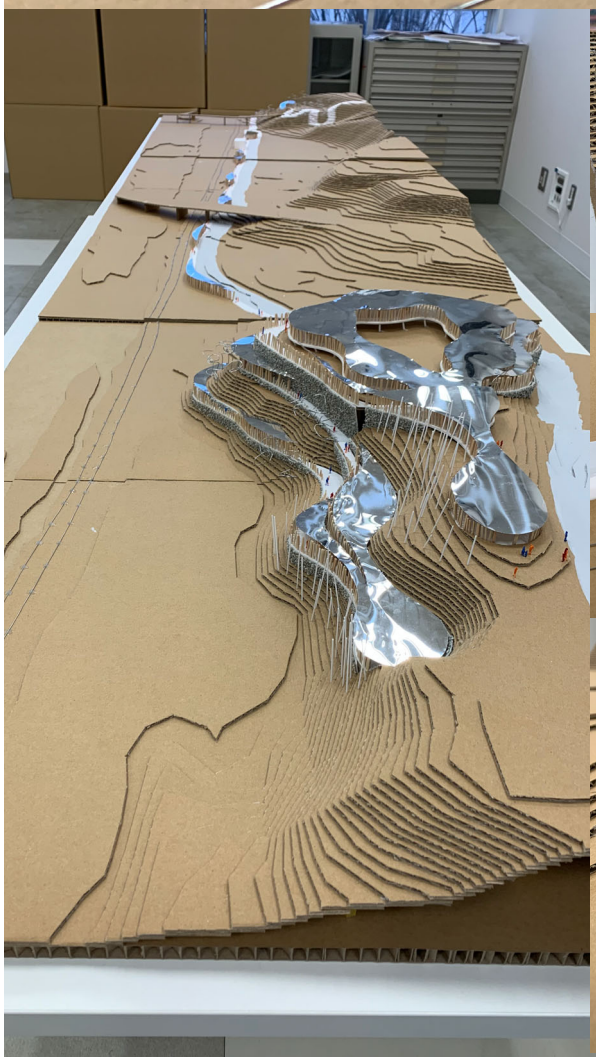
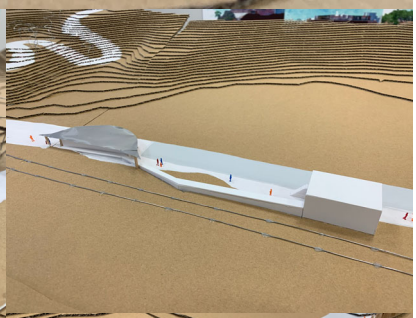
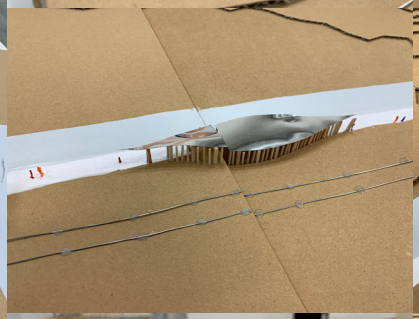
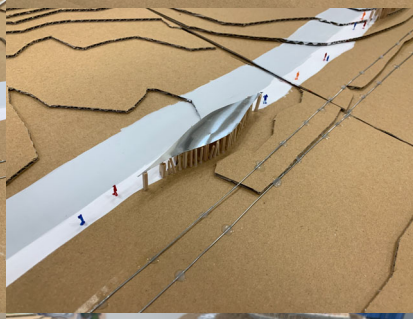
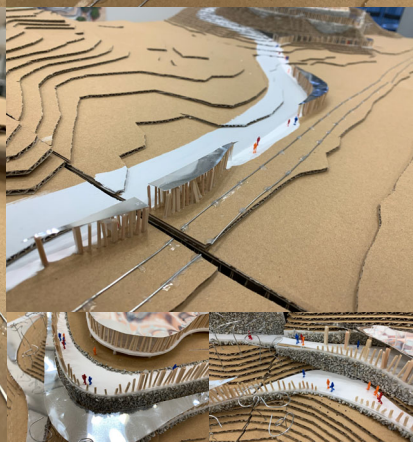


□プログラム

この建築は図書スペースや自習室といったラーニングコモンズを機能の主体としており、各々の空間での活動の様子を知りやすくするために空間構成を柱のみで行っている。そうすることで、今まで知り合うきっかけがなかった人と良い意味で干渉しあうことを実現させた。それにより、年代や性別を問わず、あらゆる人が違和感なく一緒にいられる、地域が循環する形を作った。



□デザイン

全体としては、歩いて町を行き来できる新たな道を設定し、そこから建築を構成した。つづら折りに崖地を上りながら外部空間と内部空間を交差させることで崖地と一体化させ、崖地を整理して人が歩ける空間を設けている。

また、3種類の太さの柱やルーバーを配置しそれらの高さに変化を付けることにより、景観をコントロールしながら屋外から半屋外、屋内へといざなう演出をした。